

～今、市民の森では！～



昆虫もたくさん載っています

作成:NPO 法人 ハヶ岳森林文化の会 森林観察学習部会
(Tel: 0266-75-1772 Mail: shinrin_bunka@yahoo.co.jp)
掲示許可:茅野市 環境課 環境保全係

毎年、一般募集して結成した月例観察会メンバーにより、月一回の月例観察会を行っています。そのメンバーから市民の森を散策される皆さんへ、メッセージをお届けします。市民の森の現在の様子(咲いている花、飛んでいる蝶など)をお伝えしますので、ご参考に、気持ちの良い散策をお楽しみください。月例観察会は、1回参加も受け付けております。お問い合わせは 75-1772。

茅野市 市民の森ガイドブック「市民の森に集う」(新書版144ページ)は茅野市役所 環境課 環境保全係で無料配布しております。是非、散策のお供に！

まだまだ新発見 (悦)

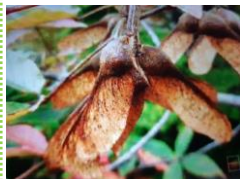
今回は、昨年オープンされた北コースの観察です。この尾根には、他のコースでは観察できない大きな葉のハクウンボクの実生が沢山見られます。まだ、花を観察できた木は1本だけですが、2,3年もしたらハクウンボク通りができる勢いです。横河口から登ってすぐのところ、真っ赤に紅葉する木を見つけました。3出複葉で毛深い木、なんとメグスリノキでした。市民の森では初観察です。私たちは長く観察会をしています、観察範囲は200ha ある市民の森のごく一部です。、まだまだ新発見が楽しめそうです。



メグスリノキとリンドウ (三)

私は初めての市民の森の秋なのでどんな紅葉が🍁と期待していましたが、時期がまだ早いのか紅葉と呼べる風情は感じられませんでした。唯一 目薬の木(メグスリノキ)に目を奪われました。陽の当たる上の方だけでしたが、一際異彩を放っておりました。実はメグスリノキと言う名前は以前から知ってはいましたが、実物を見るのは初めて！痛く感激しました。その紅葉はカエデ属の中でも秀逸だそうでした。全部の葉が染め上げれば見事な紅葉となるであろうと思われます。

もう一つは山頂広場に咲いていましたリンドウです。先日、娘が私の送ったリンドウの花の写真を見て「竜胆綺麗ね！」と返してきた。私 竜胆って何のこと？調べて見るとリュウタンが訛ってリンドウに成った由。



メグスリノキ タネ



リンドウ

記号の説明:

- ①xx:ガイドブック「市民の森に集う」xxページ参照
- ②xx:ガイドブック2「森を楽しむ」xxページ参照

ガイドブック2「森を楽しむ」は、2017年3月に発行し、只今、300円で販売中。

《取扱所》 茅野市尖石縄文考古館
茅野市北山 カフェ 午後の森
《問合せ》 NPO 法人 ハヶ岳森林文化の会
☎: 0266- 75-1772

来年の楽しみも (古)

天気がよいからと思ひ、少々薄着で参加。秋の深まった市民の森は寒いくらいでした。ガマズミ類の赤い実、特徴のあるクサギの実可愛いらしくて秋の観察を楽しみました。紅葉せずに落葉するハンノキのことは印象的でした。

また、来年のコアジサイ、エゴノキ、ハクウンボクの花がとても楽しみです。まだまだ実物と名称や特徴などが混乱していますが、植物が子孫を残すために身に付けて来ていることに感心するばかりです。

ヤナギタケ (吉)

湿った水路脇のバッコヤナギの上の方に、ちょっと食べ頃が過ぎたヤナギタケが4本。ヤナギタケは虫捕りアミで採ると良いと教わりました。来年は待酔草香る月明かりの下でヤナギタケを肴に一杯！

メグスリノキ (口)

市民の森で、紅葉した「メグスリノキ」が発見されました。早速、家に戻って図鑑を開きフムフム、別名チョウジャンノキ。「戦国時代の武将黒田官兵衛を輩出した黒田家は、本種から製造した目薬で財を築いて台頭、その後も目薬が基盤となって一族の財政を支えたという。目薬長者が別名の由来である。」メグスリノキの出会いから歴史がひも解けた。紅葉の色は鮮やかなサーモンピンクとも明記されていた。

今年は、キノコが不作らしいが程々に市民の森では見かける。右写真はホテイシメジです。でも、ドンブリ、クリ、クルミは不作です。

今、観察できる花 (悦)

- ① ヒメジョオン ② ヌウガギク
- ③ センブリ ④ リュウノウギク
- ⑤ イヌタデ
- ⑥ リンドウ
- ⑦ ノコンギク



(悦)

⑧ ツクバトリカブト



(三)

今、観察できる果実

- コナラ ●タチドコロ
- ウリハダカエデ ●ツククサ
- フサザクラ ●アケボノソウ
- ヤブマメ ●ツルドクダミ
- クサギ
- ガマズミ ●コバノガマズミ
- サルマメ ●オトコヨウゾメ



不思議がいっぱい (そ)

イネ科のツツノヒゲ。葉は出てすぐに裏表逆向きになるという理由はなぜ？分岐した細い枝先に小さい3ミリ程の穂が付き白い花が付いている。踏まれそうでもがんばっている。



クサギの黒光りした果実ができる前の、花が咲き終わり、これからその準備に入るだろう状態を観察できました。自然界の季節の変化を植物はどこでどう感じるのか、やっぱり不思議です。



リュウノウギク



センブリ

色々 (黒) 写真:(悦)

- 歩き始めてまもなく。きれいな鳥の鳴き声、ガビチョウとのこと。知っている人がいてよかった。図鑑で見ると、目の周りから白いアイシャドーでも塗っているような特徴的な顔、暖かい地方にいるということだが温暖化の影響？ 鳴いている姿を見たいものだ。
- 初めて見たメグスリノキの葉と実。きれいな紅葉と実の面白い形。まるで翼を備えているかのよう。
- そしてアケボノソウの花の後。花びらが散ることなく、咲いた後上に持ち上がって、実が熟していくのを優しく包むような形。初めて見たので、新発見！かと思いきや、そんなことはなく、笑われてしまった。



- 大好きなフサザクラの木が倒れていた。陽樹ということなのだろうか？ 枝に、花の後実らせた種がついていたので、鉢に播いてみよう、何粒かポケットに入れてきた。



オトコヨウゾメ



秋 (10月)

東コース 1.0Km
池⇨横河口
→20分 ←25分
ほぼ平坦

せせらぎコース 1.2Km
南コースとの分岐⇨横河口
→35分 ←40分
ほぼ平坦

中央コース 1.5Km
山頂広場⇨池
→25分 ←35分
(標高差100m)

1.3Km
駐車場⇨山頂広場
→60分 ←45分
(標高差100m)

南コース 1.8Km
駐車場⇨池
→40分 ←50分
ほぼ平坦

頂上広場のリンドウ見頃 (su)

10月にしては寒さを感じながら、横河口をスタート。初観察したツルドクダミは駐車場の縁に生息。今まで見逃されていたのは、車のおかげなのかしらん？と思いました。ハクウンボクの葉が、まあ見事にくるくると巻かれていて、びっくりでした。ハマキガの仲間の仕業だそうですが、その作業過程を見たいものです。頂上でリンドウの花が出迎えてくれて、花が少ない季節のごほうびかと、嬉しかったです。のんびりと観察できて、楽しい一日でした。



疑問解決 (桂)

今回も参加して、2つの疑問が解決しました。まず、ツルドクダミ、庭木に絡みついている実にミツバチが来ていたので、後で調べようと思っていた所、朝一番に(悦)さんから教えて頂きラッキーでした。そして、ハクウンボクの葉を巻いたハマキガ、夏に、家のそばでトチの葉が皆丸まっているのを見つけ不思議に思っていました。8月の猛暑、乾燥の影響大かもしれませんね。右のシラカバ、役目を終えたように見えますが、まだまだこれから虫の棲みかになり、野鳥の餌場になり、キノコも生え、朽ちては森の栄養になります。自然は完璧です。



クルミの割り方 (悦)

クルミが横に真っ二つ。リスは縦の割れ目に沿って割るはず？だれの仕業？リスにも変わり者がいる？

